

サンフレキ ROBO と N2V2BG 型コネクタの施工は下記の要領で行って下さい。

1. サンフレキ ROBO 附属品 N2V2BG 部品構成

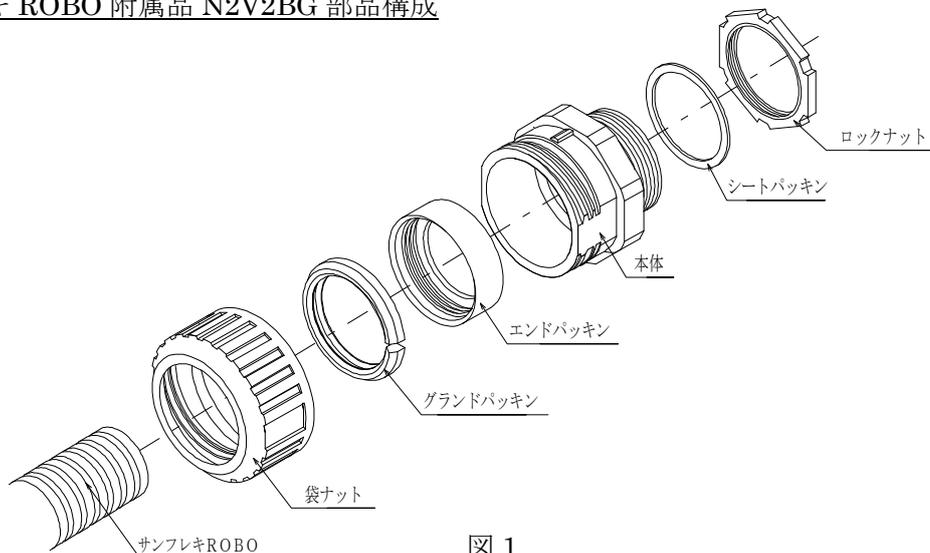


図 1

2. サンフレキ ROBO を必要な長さに切断します。

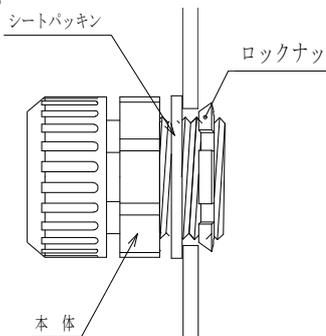
☆ 切断は、フレキシブルカッター（メリー製 品番 FL38）又はカッターナイフをご使用下さい。

☆ 切断は、サンフレキ ROBO の溝部に沿って、垂直に行ってください。

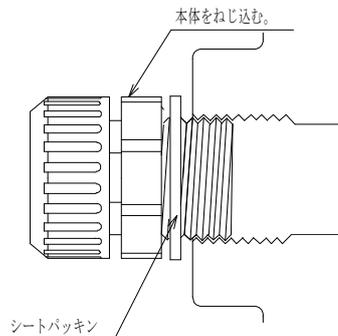
3. 本体をボックス、機器等に取り付けます。

☆ 袋ナットを外す必要はありません。

☆ ボックスコネクタをボックスのロックアウトに接続する場合は、防水のためのシートパッキンを介してロックナットで確実に固定します。

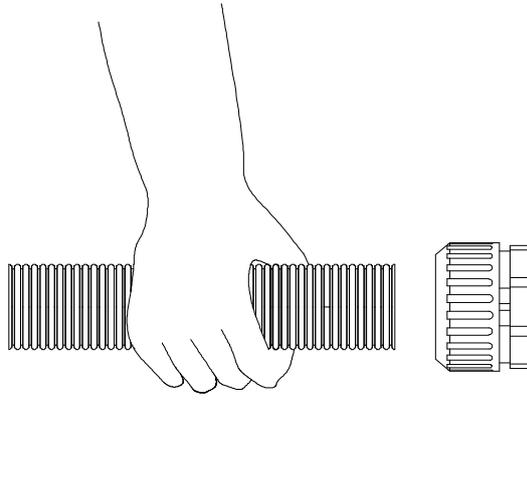


☆ ボックスコネクタを機器のハブに接続する場合も、防水のためのシートパッキンを介して本体をハブにねじ込みます。



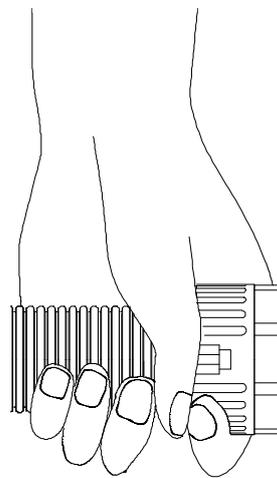
4. サンプルレキ ROBO を本体にねじ込み、必要な位置までフレキを貫通させます。

- ☆ フレキが本体のねじ側に出ましたら、ねじ側からフレキを引っ張るほうがフレキを引き出しやすいです。（引っ張ることでフレキが細くなるためです。）
- ☆ フレキが引き出しにくい場合は、フレキを濡れた布等で拭き、表面がぬれた状態で貫通させると、引き出しやすい場合があります。



5. 袋ナットを締め付けます。

- ☆ 袋ナット端面が本体フランジ部に当たるまで、手で確実に締め付けて下さい。カチッと固定される感触があります。最後が手でカチッとならない場合は、プライヤー等をご使用下さい。



☆締め付け後、袋ナットを手で逆回しにして袋ナットが戻らないことを確認して下さい。 作業完了

☆袋ナットは、若干ガタついても、手で戻らなければ締め付けは OK です。

※フィッチングの状態で納入される場合、附属品によっては仕様上サンプルレキ ROBO が固定されていないことがあります。この場合附属品を機器に固定後、必要な位置までフレキを引き出した後、4. の手順から施工を行ってください。

解除方法

6.1 附属品がボックス等に接続されていない場合

図2のように、袋ナットの四角穴のあるフランジ平取り部をバイスに挟み、軽く締め付けます。(約0.5~1mm程度) 袋ナットの2ヶ所の平坦部を親指と人差し指で強くはさんで潰した状態で、袋ナットを四角穴側(C側)に寄せながら袋ナットを矢印B方向に回すと袋ナットが緩みます。(手で外れない場合は、プライヤーを使用してください。)

約半回転で袋ナットが止まりますので、さらに手で袋ナットを矢印方向に強く回すと約半回転で袋ナットが外れます。サンフレキ ROBO についているグランドパッキンと袋ナットを外してください。

6.2 附属品がボックス等に接続されている場合

図3のように、袋ナットの2ヶ所の平坦部を親指と人差し指(又はプライヤー)で強くはさんで潰した状態で、袋ナットを四角穴側(C側)に寄せながら袋ナットを矢印B方向に回すと袋ナットが緩みます。(緩まない時は、図4のように袋ナットの四角穴にマイナスドライバーを強く差し込んで、フレキ側(矢印A)に倒しながら袋ナットの2ヶ所の平坦部を持って、矢印B方向に回して緩めて下さい。) 約半回転で袋ナットが止まりますので、さらに手で袋ナットを矢印方向に強く回すと約半回転で袋ナットが外れます。サンフレキ ROBO についているグランドパッキンと袋ナットを外してください。

【注意】 ドライバーを四角穴に差し込んで倒す際、附属品を手で持つとドライバー先端が穴から外れて手や顔を傷つける恐れがあります。袋ナット解除の作業はできるだけ附属品をボックス等から外さずに行い、怪我をしないよう十分注意してください。

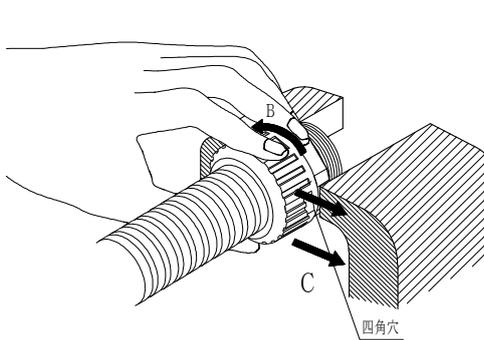


図2

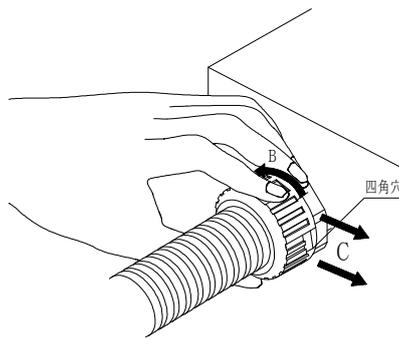


図3

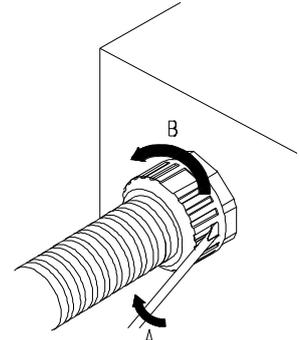


図4

7. 再び取り付ける場合は、グランドパッキンの方向に注意して(図1参照:フラット面がコネクタ本体側になる)袋ナットに入れ、時計方向に袋ナットを回すと、約半回転でカチッと音がして袋ナットが軽く止まります。この状態が初期状態なので、ここからサンフレキ ROBO の接続を始めて下さい。

